

都市再生整備計画(第2回変更)

さ ざ
佐々地区

ながさき さざちよう
長崎県 佐々町

平成27年8月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長崎県	市町村名	さざちよう佐々町	地区名	さざ佐々地区	面積	943 ha
計画期間	平成26年度	～	平成30年度	交付期間	平成26年度	～	平成30年度

目標
大目標:安全・安心なまちづくりのための環境整備を行い、定住人口・交流人口の促進を図る。 小目標①:防災情報等の収集、伝達、共有機能等の強化。 小目標②:交通体系、住環境の整備。 小目標③:交流の場の形成。

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 平成22年度策定の第6次総合計画では、「暮らしいちばん！住むなら さざ」を将来像に、「定住のまち」をキーワードとした10のプロジェクトからなるまちづくりの指針として策定した。 「定住」を促進するためには、安全で安心して暮らせることが最も重要であるが、これまで地震とは無縁と思われていた本町でも、平成17年3月に起きた「福岡県西方沖地震」では震度4を記録し、平成23年3月の「東北地方太平洋沖地震」や、近年全国各地で発生している局地的豪雨による災害では、いづどこで大規模災害が発生してもおかしくないことを改めて認識させられた。また、昨年度見直しが行われた「長崎県地域防災計画」においては、地震津波による本町の建物浸水被害は560棟になると予測されている。 このような状況の中で、既存の防災行政無線では、宅地開発等により新たに形成された住宅地への情報伝達手段がなく、山間部等の世帯に配布している個別受信機も製造中止のため対応が不十分である。このため、高齢者や障がい者、児童、生徒など、いわゆる「災害弱者」と呼ばれる方を含めた全町民が災害から身を守るために、既存の施設の更新および多様な手段による情報伝達基盤の整備が急務となっている。 平成23年9月に西九州自動車道路佐々インターチェンジが開通し、インターチェンジ周辺の道路の交通量が大幅に増加し、商業施設の立地も増えてきている。周辺は農業振興地域に指定されているため、まだ多くの農地が広がっているが、地域の活性化を図るため、現在農振地域の除外手続きを進めており、交通渋滞の緩和を含め、効率的な土地利用のための道路整備が必要である。 本町南部に位置する体育施設「サン・ビレッジさざ」に隣接する、大型遊具等を設置した「でんでんパーク☆さざ」が平成25年4月にオープンしたが、休憩所、トイレ、駐車場の整備を求める声が多い。このため、公園に隣接し貸し付けていた町有地が返還されることに併せて、より充実した公園となるようにこれらの施設を一体的に整備し、交流人口の増加を図る。 地域の町内会活動や各種団体が活用できる会議室、ダンス、体操、ヨガなどの軽スポーツから、空手や剣道、柔道など利用できるような多目的ホールを要する地域交流センターを整備し、地域住民の相互交流、地域コミュニティの醸成を行う。
課題 1.情報基盤の整備(多様な手段による災害情報伝達基盤の整備・災害情報等の未伝達地域の解消・河川状況の監視) 2.交通体系の整備による渋滞の緩和及び計画的な土地利用 3.利用者のニーズにあった公共施設整備
将来ビジョン(中長期) 第6次佐々町総合計画(平成22年度策定)においては、平成23年度から平成32年度の10年間の基本構想として、「暮らしいちばん！住むなら さざ」を将来像に、「1.ずっと住みたい、住みたくなる暮らしづくり」、「2.自然とまちが融合する顔づくり」、「3.まちの発展を支え元気に働ける仕事づくり」、「4.手と手をつなぎ未来をつくる協働のまちづくり」の4つの基本目標を掲げている。 安全・安心なまちづくりを進めていくことで、「定住」のまちづくりを展開していく。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
安全な暮らしづくり施策に対する町民満足度	%	アンケート調査による「安全な暮らしづくり施策に対する町民満足度」の向上	総合防災システムの構築、道路改良等によってもたらされる安心感を満足度として指標化する。	49.3	H22	57.0	H30
将来目標人口	人	総合計画に掲げる現在人口の現状維持	総合防災システムの構築による安全・安心なまちづくり、公共施設の充実によるにぎわいを創出し、暮らしやすい町を目指して定住化を図る。	13,600	H22	13,600	H30
公共施設整備に対する町民満足度	%	アンケート調査による「公共施設整備に対する町民満足度」の向上	交流の場の整備による利用者の拡大を満足度として指標化する。	41.7	H22	52.0	H30

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
○防災情報等の収集、伝達、共有機能等の強化 災害情報を迅速かつ的確に伝達できるよう、総合防災システムとして、防災行政無線のデジタル化およびメールなど多様な手段による情報基盤を一括して整備する。また、既存の防災行政無線では情報が伝達できなかった地域に対しても、子局を増設することにより課題解決を図る。 特に懸念される豪雨災害を想定し、災害弱者と呼ばれる方への早期の対応、また河川や中央地区低地帯の浸水被害をいち早く把握し、的確な対応や避難誘導を行うことにより、被害の軽減につなげる。		○総合防災システム構築事業(基幹事業／地域生活基盤施設) ○総合防災システム構築事業(関連事業／地域生活基盤施設) ○避難情報等表示板設置事業(基幹事業／地域生活基盤施設) ○河川監視カメラ設置事業(提案事業／地域創造支援事業) ○事業効果分析調査(提案事業／事業活用調査)
○交通体系、住環境の整備 今後の商業施設等立地による交通渋滞緩和及び効率的な土地利用のため、道路の拡幅整備を行う。また、定住人口確保のため雇用促進住宅の購入による住環境の整備を行う。		○町道牧崎市場線道路新設改良工事(基幹事業／道路) ○雇用促進住宅購入(提案事業／地域創造支援事業) ○事業効果分析調査(提案事業／事業活用調査)【再掲】
○交流の場の形成 平成25年4月にオープンした大型遊具等設置の公園について、休憩所、トイレ、未舗装・未区画の駐車場の整備により快適に利用できるようにする。さらに、隣接町有地へ拡張整備を行い、交流人口増加をより一層促進させる。 地域活性化の拠点として、地域交流センターや図書館機能向上の整備をすることで、地域の町内会活動や各種団体の活動を充実、新たな取り組みを促し、交流人口の拡大を図る。		○でんでんパーク☆さざ拡張整備工事(基幹事業／地域生活基盤施設) ○地域交流センター建設事業(基幹事業／高次都市施設) ○郷土資料展示場整備事業(提案事業／地域創造支援事業) ○事業効果分析調査(提案事業／事業活用調査)【再掲】
その他 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 ・事業終了後においても、引き続き将来ビジョン達成に向け、全ての住民が安心して暮らせるまちづくりを目指して事業の効果を検証していく。 ○交付期間中の計画の管理について ・本件事業を円滑に進め、確実な効果を上げるため、関係各機関との連携を図りながら、事業進捗の推進・把握に努める。		

[illegible]

都市再生整備計画の区域

佐々地区(長崎県佐々町)	面積	943 ha	区域	佐々町全域
--------------	----	--------	----	-------

